

令和 3 年

第 4 回 教育委員会 臨時会

# 議 事 録

佐 渡 市 教 育 委 員 会

令和3年 第4回 定例・臨時 委員会 議事録

委 員 会 日 程		会 場
開会日時	令和3年3月7日 午前・後 10時00分	佐渡島開発総合センター 2階 第3会議室
閉会日時	令和3年3月7日 午前・後 11時38分	
延会日時	平成 年 月 日 午前・後 時 分	
出 席 者	欠 席 委 員	会 議 録 署 名 委 員
教育長 渡邊 尚人		中村 友子
1番委員 仲川 正道		池 典比古
2番委員 中村 友子		
3番委員 信田 恵子		
4番委員 池 典比古		
説 明 の た め 出 席 し た 職 員		
教育総務課 課長 坂田 和三 課長補佐 高野 久之 総務係長 飯田 誠		社会教育課 課長 市橋 秀紀 佐渡学センター長 濱崎 賢一
傍 聴 人	有・無	
報 告 の 要 旨	「議事の概要」のとおり	

会 議 で 行 っ た 選 挙 の 結 果
なし

会議に付議した事件の題目		
議案第17号	佐渡市教育委員会教育長の辞職の同意について	
報告事項	佐渡文化財団について	
次回会議開催日		
採決の結果及び可否の数を計算したときは、その数		
なし		
請願、陳情	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	有の場合、別紙のとおり
その他必要と認めた事項		
特になし		

【議事の概要】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> </ul>	<p>◎本臨時教育委員会は、午前 10 時 00 分から開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ただ今から令和 3 年第 4 回佐渡市教育委員会臨時会を開催いたします。</li> <li>・ 初めに、日程第 1、「議事録署名委員の指名について」ですが、本日の署名委員は佐渡市教育委員会会議規則第 18 条の規定により、中村委員と池委員の 2 名を指名いたしますので、よろしく願いいたします。</li> <li>・ 次に、日程第 2、議案第 17 号は、人事及び個人情報に関する内容が含まれていることから、佐渡市教育委員会会議規則第 7 条の規定により、秘密会としたいので、これに賛成の方は挙手をお願いします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員全員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挙手</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議案第 17 号は秘密会とすることといたします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> </ul>	<p>【秘密会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日程第 3、報告事項 1 の佐渡文化財団について、事務局の説明を求めます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市橋社会教育課長</li> </ul>	<p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度から問題になっています文化財団の方向性について、昨年 12 月に、文化財団のあり方検討会から答申が出ました。その答申を受けて、佐渡市の方でどういう方向がいいかと検討をさせていただきましたので、その内容等を含めて次の資料により全体を説明させていただきます。</li> <li>・ 文化財団のあり方に関する検討結果について</li> <li>・ (一財) 佐渡文化財団 令和 2 年 7 月～令和 3 年 2 月実施報告</li> <li>・ 佐渡市民謡団体実態調査 結果報告書</li> <li>・ 令和 3 年度佐渡文化財団の施策の柱と実施事業（事業計画）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ただ今説明がございましたが、質問、ご意見をお願いします。</li> <li>・ いきなり全部いくと大変でしょうから、順番にいった方がいいんですか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市橋社会教育課長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冊子が 4 つになっていますので、冊子ごとに質疑いきます。</li> <li>・ まず、文化財団の在り方に関する検討委員会について、ご質問ご意見ございますか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲川委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相当根を詰めてお仕事をなさったんだろうと思いました。</li> <li>・ 一通り、目を通させていただきましたし、今回の検討委員会の前の文化財団に関する検討会の答申書についても目を通しました。</li> <li>・ 前の答申書の意を汲んで、検討なされたと思います。答申書の中でショッキングであったと思うのは、特に組織体制について大きな不備が指摘されていることです。</li> <li>・ このような組織のまま、活動についてあまり理解がなされていない状況の中で、組織をスタートせざるを得なかったことは、随分、深刻な問題だと思っています。</li> </ul>

・ 市橋社会教育課長

- ・ この財団が、順調に進まなかった理由は、私はこれだと思っています。しっかり知識経験のある人、ガバナンス経験のある人、あるいはネットワークの良い調整能力のある人を配置することが出来なかったんじゃないだろうか。だからこんなふうに手当たり次第いろいろやってみて、空中分解するような形で、ここに来てしまったのではないかと考えています。
- ・ 同じ轍を踏まないように、再スタートに向けた人材を配置し、ガバナンスをしっかりと、短期・中期・長期の計画をしっかりと立てながら進んでもらいたい。
- ・ 準備不足の段階で、適切な人材が見つからない中で、見切り発車で方向性を見失ってしまった。こういうときにふさわしい人材とはどういう人材なんだろうかを、考えてみました。
- ・ 再スタートにあたっては、市役所職員の中から、指導的役割の人間を財団の上位の位置に、専務理事や理事長や事務局長などとしてつけるほうがいいのではないか。
- ・ 市役所の組織もよく知っていて、文化行政にも通じた人間で、市と連携の取れる課長級か課長補佐級の人間を当面はトップか2番手ぐらいに立てることは出来ないものだろうか。
- ・ 専門職員を入れるというのが答申の中にありましたね。例えば、考古学、博物館学、民俗学の専門知識を持った人間を入れるというのは、それはそれでいい。しかし組織の運営はそれでは出来ない。専門知識で組織は運営出来ませんので、人をしっかりと動かす、法に基づいて動かす、そういうバランス能力のある人間をつけることが最優先だろうと考えます。
- ・ 佐渡学センターの前の話をさせてもらいたいんですが、佐渡学センター内に文化財室があったのですが、世界遺産の関係で、文化財室が世界遺産の方へ教育委員会から、今出ております。
- ・ その中で、文化財団、文化財室は、有形の部分だけやっております。その時の話合いがしっかりされてなかったと思うんですが、無形の部分の話合いがされてなかったという現状がある中で、文化財団が見切り発車してるっていうところ、先ほどビジョンの話もしましたが、今、この検討会をしてる途中でいろんな意見の中では、やはり今、先生言われたとおり、3年後ぐらいに、しっかりとした見直しをしてというところで、話があったとおりですね、現状、小さいなりに進めていきたいというふうに考えています。
- ・ 職員については、今、総務と副市長の話の中では、補佐クラスであって、人事が発表されてないんで、はっきりしたことは言えないんですが、補佐クラスで、なおかつ専門性のある職員を派遣したいという方向が出ています。それと、日本中の世界遺産を取ったところは、今までは取るために、世界遺産課があったんですが、取った後は、保存と活用というところを考える中で、世界遺産課から観光に行ったりとか、教育委員会に戻ったりとか、いろんなケースがございます。
- ・ 多分、佐渡市もそういった動きになってくると思うのですが、それが3

<p>・仲川委員</p>	<p>年後ぐらいになるかと読んでいますが、文化財室と佐渡学センターの中が、教育委員会で一つなった時点で、有形無形をしっかりと管理していく、動いていく中で、そのときに、文化財団の在り方も一旦見直しをしようというところで、その方向の中の意見交換も出てきて、そういうことも大事じゃないかという話合いがございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多分そういう方向ではいけるかなと思いますが、この後つくる文化振興ビジョンの中でしっかりそういったものをうたっていく必要があると思っています。</li> <li>・ 3年後の見直しと、意見言われた派遣できる職員は、今後はそれなりの職員を出していきたいと考えております。</li> <li>・ 今後の仕事の内容についても対策検討会の中で、精査されたという感じを受けました。</li> <li>・ 有形と無形をしっかりと分けよう。無形の技術や芸の部分を伝承してるいけるようにしよう。就労体験や教育との連携の中で広げていこう。そのとおりでと思います。</li> <li>・ 実は、それが一番難しいところです。例えば民謡団体がありますが、団体の人たちは、それぞれの会のやり方にとってもプライドを持っています。プライドというのは、とても立派なことなんですけれども、場合によっては、排他的になりやすいという面もあります。</li> <li>・ 私は、郷土芸能部のある学校に随分と関わってきましたが、高校生の芸能活動について、本来の民謡の在り方と違うというような意見をいただいたこともあります。高校生が美意識を持って、美の追求を目指している部活動に対して、本来と違うという言い方をされる方もおられました。しかし、高校生には高校生の美の追求の仕方があるんです。</li> <li>・ そういうものを受容するというを前提にネットワーク化、組織化していけないと、活動は残念ながらうまくいかないだろう。だからよく人を選んでください、説明のできる人、信頼を持ってもらえる人。対立ではなくて、融和させることができる人をそれなりの立場につけていただくようお願いします。</li> </ul>
<p>・池委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非常に整理されて、何が問題なのか浮彫になって素晴らしいなと思いました。特に無形に焦点を絞ったということで取り組む方向がはっきりしてきたのは、いいかなと思います。これで、集中してやっていければいいと思います。</li> <li>・ もう一つ、チェック機能が消えてしまった部分というのが蘇って、今度しっかりと方向性を定めチェックしていくということなので、大変良いのではないかと考えています。ここまで整理するのは、大変だったのかなと思いますが、まとまっています。</li> <li>・ 自分が中学校で勤務の際、キャリア教育や若手の育成をはかるとき、こういう指導者がほしいというときに、なかなかうまくみつからないということがありました。</li> </ul>

<p>・ 市橋社会教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 逆にこういう教育活動をしてほしいという形で学校に依頼が来るんですが、その辺がちょっとぎくしゃくしてる気がするので、その辺がうまくいくと団体の方も来ていただけるし、そういうことができるんじゃないかと思いました。2番の若い担い手とキャリア教育支援というところのスムーズな連携というものが、是非あると良いかなと。</li> <li>・ 一言、感想ですが、羽茂高校の文化芸能部ですが、今まで見る事がなかったのですが、一度見たら民謡はもう感動して、何回も見たいと思いました。</li> <li>・ のろま人形も文弥人形もそうですが、魅力がいっぱい詰まってるんですが、それが輝いていないというか、例えば鼓童の太鼓という文化があれば活躍しているのと同じように、民謡でも抜きでるものが出てくると、見ていただけるものになるような気がします。</li> <li>・ 非常に大事な部分ではないかと思しますので、方向を変えないで目的に向かって何をすればいいかということを確認にして、集中して取り組んでいただくと非常にいいものが出てくるのかなと感じました。</li> <li>・ 今、学校っていうところでは、私たちしっかり連携していきたいと。そして、放課後教室とか言った部分で連携させてもらいたいなと思っていますので、教育委員会の力を借りたいと思っています。</li> <li>・ 民謡だけで言うと、私の自分の経験からいうと、私は両尾小学校なんですけど、佐渡おけさを昼食前に踊るのです。河崎の方が生演奏してくれて、民謡踊れるっていうぜいたくは、なかなかないなと。河崎小ではどうかわかりませんが。</li> <li>・ 私の娘も河崎へ唄を唄いに行きました。そういったことが子どもたちの教育に大きく影響があって、生演奏を校内で広くというところがすごくよくて、私自身小学校6年間そうだったんですが、子どもとこへ行ったときには、すごくよかったなと思っていて、また学校等連携させてもらって、テープじゃなくて生演奏をする。</li> <li>・ 文化財団にもそんな活動をするよう言っていますが、そういったことを進めさせてもらいたいと思いますし、仲川先生言われたとおり私も各団体のほうを見て回りました。</li> <li>・ その中では、やはり力のある団体、力がない団体と、昨年回った中で思いましたが、今回組織については、そんなに大きくない団体のほうから長を選ばせてもらって、その人たちがまとめてもらうような形で、みんなが連携できるような形で、皆さんの意見を聞いて、人選は考えさせていただきました。</li> </ul>
<p>・ 仲川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先ほど池委員のお話にチェック機能ということがありました。とても大事なことで、事務局にはビジョンに沿った活動を精力的にやってもらいたい。</li> <li>・ 振り返ってみると、今までもこの組織には、理事がいて、理事会があり、評議員もいて評議会があり、監査もいた。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・市橋社会教育課長</li> </ul>	<p>こういう何重にもなっているシステムが、そのチェック機能を発揮できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いわゆる形骸化ですけれども、その反省が、あまり答申に出ていないし、今回の方策検討会にもない。そこはどう考えますか。</li> <li>・ 文化財団に協力がなかったところと、理事さんたちにもそういう専門的な知識もなかったというところとか、いろんな問題があったかと思います。</li> <li>・ 今、文化財団のあり方を検討するということですから、向こうの人たちがどうのっていうことはここには書いておりませんで、文化財団のほうでは、これまでのことについて、どういうふうに関省するとかどうするのかというところを、一旦、自分たちで考えてくれということで、今理事たちは残ってますので、ホームページになるのかどうか分かりませんが、過去の自分たちを振り返って、理事として謝るなら謝る、どうするんだということは、これを新たに始まる上で、文化財団の職員と話して理事さんたち等も話しておるといところでございますので、何らかの動きがあるのではないかと考えております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲川委員</li> <li>・市橋社会教育課長</li> <li>・仲川委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状での理事会、評議会、監事の人数と役割はどう整理されていますか。</li> <li>・ 理事としては7人、評議員としては9人です。監事が2名です。</li> <li>・ これだけの人が組織を見てるんだよね。</li> <li>・ 役割はどうなっていますか。すみ分けは。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市橋社会教育課長</li> <li>・濱崎佐渡学センター長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事の職務は、この法人の業務の執行の決定、理事の職務の執行の監督、理事長専務及び常任理事の選定及び解職です。</li> <li>・ 評議委員会についての権限ですが、理事及び監事並びに評議員の選任または解任、理事及び監事に関する報酬等の支給基準、評議に対する報酬等の支給基準、貸借対照表財産増減計算書並びに財産目録の承認、定款の変更、財産の処分、基本財産の処分又は除外の承認、その他、評議で決議するものとして、法令またはこの定款で定める事項ということになります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲川委員</li> <li>・濱崎佐渡学センター長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 濱崎センター長の理解している評議会と理事会の違いは、明確には何ですか。</li> <li>・ 理事会については、業務の内容を詰める組織といいますか、要は事務局と一緒に、業務を行う内容だと思っておりますし、評議員については監督管理といいますか、最終的な判断という形だと思っております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲川委員</li> <li>・濱崎佐渡学センター長</li> </ul>	<p>ですが、評議委員会の中の原案として、事業に対することの内容載ってませんでしたので、それについては、ちょっと手落ちだったのかどうか分かりませんが、要綱の変更が必要だったのかもかもしれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人数とか、その業務内容については見直す予定はあるんですか。</li> <li>・ 今回このような形でありましたので、文化財団のほうで定款の内容を見直すことは必要かと思えます。その辺り私たちも指導しなきゃいけないと思っております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲川委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に評議員9人は多過ぎると私は思っています。充て職として万遍なく</li> </ul>

<p>・ 信田委員</p>	<p>という形なんだろうけれども、かえってそれが形骸化のもとになったのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 充て職ではなくてふさわしい方をお願いしたい。評議会と理事会の在り方についても、社会教育課として検討いただきたいと思います。</li> <li>・ この多くの調査の資料、結果、本当に皆さんが地道に地域に入って、回られて調査をされて、なおかつこの報告がここまで出来てきたんだと思っております。</li> <li>・ 本当にご苦労者様でしたと私たちが言うだけなんですけれども、本当に佐渡島は広いです。</li> <li>・ いろいろな無形文化財、民謡団体がありますが、本当に多い状況の中、一つ一つを把握するのは本当に難しいことだと思うんですが、もっと地域の行政センターとかありますよね。</li> <li>・ 支所とかもちろんその中には公民館活動で、今まで自分たちは地域の民謡団体であったり、能の会であったりですが、一番もとは公民館に所属するような思いがあります。</li> <li>・ ですから、地元の地域の中には、今まで築いてこられた、文化財のことにに関して造詣も深い方ももちろんたくさんいらっしゃると思いますので、一人一人が調査に歩かれるのは、とても大変なんですけど、地域ネットワーク化といったものもどんどん活用されて、引っ張り上げて行くと、まだまだ活動の幅が広がるし深くなるという思いがいたしました。</li> <li>・ この実態調査の最後のほうも見せていただきましたが、10年先には、担い手がない、会を維持出来ないというような状況があるんだと思いますし、現実、私たちの地元の各地区で行われてた芸能団体の発表会は、コロナ禍で、昨年、今年もなく、テレビで一方的に芸能団体の発表会をやっていますけれども、伝わる生のものを近くで見ると感じるっていうのは、池先生おっしゃったように感動するものがあるんですよね。</li> <li>・ 今までには知らなかったけどこれすごいなというものを、見てもらい、それから子供たちも実際にやってみて、地域の方からいろいろ教えてもらったりしてやってみる。それがすごく子どもたちにとっても、地域の人たちにとっても達成感と満足っていうのは、また続けてみよう、やってみようという意欲につながると思うんですよね。</li> <li>・ 今の状況で、何もかも中止、駄目っていうのがいっぱいあるんですけど、その中でも工夫して、この感染対策とれることはいっぱいあると思うんですよ。</li> <li>・ それを、密になるから駄目っていうのは、そのうち面倒くさいから止めようという感覚になるんじゃないかと思うんです。</li> <li>・ このままでは本当に衰退だけだと思うんですよね。</li> <li>・ やはり工夫をしながら、地域の人たちが頑張りたい、やってみたい、もう1回挑戦しようという動機づけみたいなものを文化財団が中心になって、各地域の公民館の組織なども活用しながら、その中で理事とか評議員が</li> </ul>
---------------	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> <li>・ 池委員</li> <li>・ 濱崎佐渡学センター長</li> <li>・ 池委員</li> <li>・ 市橋社会教育課長</li> <li>・ 池委員</li> </ul>	<p>入るとより活発化されて、見える活動の財団の方向が出てくるんじゃないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近なことです。一部の文化人だけがやってることではなくて、身近に地域みんなが慣れ親しんできたものという思いがありますので、これからも続けてもらいたいと思いますし、とにかく地域の力、地域の人材、それを知ってるのは、支所・行政センターであると思いますので活用していただきたいと思います。</li> <li>・ 資料がもう少しありますので、二つの資料をまとめていきたいと思いません。</li> <li>・ 今年度2月までの実績報告、それから、来年度の施策の柱と実施計画、予算について、ご意見ご質問いかがでしょうか。</li> <li>・ 令和3年度の施策ですが、全体に②に当たるものが(1)(2)(3)に入っていないのですが。以前だと、茅葺があったので②があったのですが、茅葺を抜いたことによる影響があります。</li> <li>・ 伝統文化のところでは、無形文化財の伝統文化もありますので、そこで、(1)番の伝統芸能の継承者育成というところでは、民謡団体また人形芝居というところも入りますので、②番が入ります。</li> <li>・ それであればその定款の(1)のところに②を入れてください。</li> <li>・ 分かりました。</li> <li>・ 常設披露はいいと思いますが、金銭的・財源的な面は、非常に大変だなと思うんですよ。</li> <li>・ 財政面で、うまくいわずに駄目になったものも多いと思います。例えば加茂湖の能楽の里です。</li> <li>・ ここでも何回か観光の季節に実際におこなってみて、試算を出すというように形で取り組んでいくとなっていますが、その部分の採算というか、その辺のところは微妙で、この財政面一つで決まってしまうような気がするのです。この部分についてはかなり検討が要るし、勝算あるような形だったら呼べるかというのが指標になるかなと感じますので、よろしく願います。</li> <li>・ つけ加えて、民謡にしても縄ないや菅笠にしても、その財源が伴わないと続かないかなと。どういう形になるのかわからないけれども、やっていて満足できるような、金銭的・財政的な見返りのようなものがないと、なかなか続かないし、他の人に広がっていけないのではないかと思います。その辺のところもぜひ、考えていただきたいなと思います。</li> <li>・ 最後、茅葺なんですけど、今87歳の本間さんがおられて、若い方が1人一緒にやっておられるのはいいのだけれど、その人がやめてしまうともう駄目かなと。かと言って、茅葺だけで食べていけることはなかなか難しいと思うんですが、そうなった場合に2人3人と、繋げていける者がいないと、途切れてしまうんで、その方々がどうやって生活をしていけるか等含めたところ</li> </ul>
--	---

<p>・中村委員</p>	<p>の枠組みというようなものをつくっていただくと続けていけるのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ せっかくある技術が一つずつなくなっていくというのは非常に寂しいので、その辺の生活面、金銭面で下地を広げていただくのが続けていく大事なところなんではないかと思います。是非そのように検討をよろしくお願ひしたいと思います。</li> <li>・ 令和3年度の実施事業についてですが、常設披露もそうですし、子どもたちがそこに触れ合う機会があるというのがすごくいいなと思いました。ですが、実態調査のところで、課題と期待する支援について、以前、PTAのほうで、出演をお願いしました。</li> <li>・ そのときに幾つかの団体をお願いをしたんですが、平日ということもあって、皆さん、平均年齢は高いんですけど、お仕事をもちながらの活動ということで、人がいないし、参加出来ないというお断りを受けたのが実情です。</li> <li>・ また、こちらの会とこちらの会が合同でという感じでお願ひしても、その練習する時間がない、合わせるときがない、合わせるために、会場準備してくれないと合わせられないというものもいただきましたし、継続していくことはすごく大変なんだなと思いました。</li> <li>・ 結局、お願ひして受けてくださった団体が男性の方しかなくて、踊り手も男性の方で、ご覧になった島外の方からは、女の人が踊るイメージを持ってきたので、女の人のお踊りも見なかったなっていう意見も幾つかいただきました。</li> <li>・ やはり男の人が踊ると女の人が踊るのでは、所作や美しさが違い、力強さが男性は出てしまうし、やっぱり違うのかなと感じたので、課題と支援、この支援はきっとどこの団体も必要なんだろうなと思っていますし、その依頼をしたときに、そんなに金額は出せないんですっていうことをお話ししたら子供のためなので、交通費ぐらいで十分ですということで、お受けいただいたんですが、実際、着物とか道具を直したりするのに実際お金がかかるんだっていうお話もしていましたし、発表の場もない。</li> <li>・ 女性の方だけの団体の人たちは、発表はいつも島外、船とかでよく会ってますが、今日も新潟に踊りに行ってくるという団体の人に会ってますけど、そういう発表の場がないし、練習していても、特に今年はコロナなのでそういう場がなかったので、練習していても張り合いがないということも聞きましたんで、発表する場はもちろんですが、金銭面とか、そういうところをもっと出してあげて、団体同士が協力し合って、一つのものをつくり上げたいと思っている団体も実際にいるので、そういうところの横の連携ができると、もっといいものは、つくり上げられていくのではないかと感じました。</li> <li>・ 今年はなかったのですが、毎年民謡の唄の大会では、大体島外の方が優勝されることが多いんですが、何年か前に、佐渡の女の子が学生部門で優勝したり、島内のガイドさんが優勝したりすることもあるので、そういうところを引き伸ばしていってあげると活性化していくと思うのでお願ひしたいと思います。</li> </ul>
--------------	--

<p>・市橋社会教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表がないというのは、昨年、コロナで特にそうなったところもありますし、去年回った中では、昔はホテルで発表の場があったらしいですが、今はホテルの中で従業員が踊っていたりと、前は両津におけさ会館があったり、相川に大佐渡会館があって見る場がありましたが、そういうところもなくなってしまって、なかなか発表の場がないというのは、今回の中では聞いております。</li> <li>・ 私たちもそれで、その発表の場も含めて常設展というところと、働きながらやってるという部分もありますけども、先ほどの金銭的な収入も必要だということでは、常設展の中で入場料を取って、文化財団がプロデュースしていく。</li> <li>・ 佐渡市のほうでは、施設を任すなりという作業が出て連携していく中で、少しずつ前に進めるのかなと考えております。</li> <li>・ この後、利用団体としっかり話し合いをしながら、文化財団の役割を明確にして進めていきたいと思っております。</li> </ul>
<p>・信田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私も文化団体の会に参加している身として、羽茂の能に参加させてもらっていますが、個人的な理由で、今年は本当に練習出来ない。また、足・腰の怪我のため続けていくことが困難な状況です。</li> <li>・ 能に限っては島内に能楽連盟があります。また、佐渡市の後援によって、能の月間には各地の能舞台でやっているということで、観光客に見てもらったり、島内でも、今まで鑑賞したことがない方に見ていただくようなことで、すごくいいことだと思います。</li> <li>・ しかし、個人の集まりの団体ですので、市がどのくらい介入するかというのは、面倒なことだと思うんです。</li> <li>・ 団体によっては、市からそんなに補助金をいただかなくて、あまり介入してもらいたくないというような例もあるかと思いますが、その辺の調整をうまく取っていくと、能や民謡についても、コロナ禍ではありますが、いろいろな工夫をしながら、発表する機会はあると思います。せっかく長年にわたって築いてきた伝統文化、民謡といったものを無くしてはならないし、民謡は土産に荷物にはならないということもありますし、佐渡の人ならおけさを一つ、甚句を一つ踊れるよ、唄えるよという子どもたちが、島外へ出て行って民謡を普及していただきたいという思いがします。</li> <li>・ 介入すること自体難しいのかもしれないし、ネットワーク化や組織化も地域地域で独自性がありますし、それを全て一つにまとめようというのは出来ない、難しいことだと思うんですが、多くの団体を調整すると、いい方向に導くようなことが、財団の大きな役割なのではないかと思えます。</li> <li>・ 全て財団が管理するのではなくて、島内のそういう団体の調整を図りながら、融和を図りながら、佐渡市として、伝統文化、芸能を残していくという働きが必要だと思います。人選、役員もそうですが、担当の事務局も、これからの作業は本当大変なことだと思うんですけども、佐渡島内に住んでいる市民、島外に住んでおられる佐渡人みんなを引き寄せて、発信しながら</li> </ul>

<p>・ 市橋社会教育課長</p>	<p>支援、クラウドファンディングじゃないですけども、そういう動きもしていくと、まだまだやれるのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全て佐渡市から財源を持つてくるといって、無理な部分もありますし、多くの佐渡から出られた方、全国で活躍されている方、佐渡人会もそうですが、打てば響いてくる人たちもたくさんいらっしゃると思いますので、希望を捨てず、頑張ってもらいたいと思います。自分たちだけがやるのは難しいので、とにかく地域、地方、県外、そういうところへみんなの協力を求めていくネットワークづくりの中心が財団であってほしいなというような思いがしますのでよろしくお願いします。</li> <li>・ 今言われたこと、しっかり考えたいと思いますし、先ほど民謡団体の予約が取りにくかったところは、私たちの周知不足でありましたが、文化財団が今、その役割を担っていて、文化財団に連絡していただくと、こういう講演でこの日どこかの団体ということであれば、文化財団が調整しています。それはしっかりこの後、発信していきたいと思ってますし、地域での伝統芸能の中では、我々は公民館の役割が非常に大きいであろうと思っています。</li> <li>・ 来年度は両津公民館では、佐渡出身で民謡を新潟でやってる方がいるんですけども、こっちへ来て、民謡教室を公民館講座でやってくれるところで、地域でも、いろんな公民館が動かしていきたいなと思って、民謡だけでなく、版画とか。</li> <li>・ 市展の作品が落ちてるんですね。県展に出す人も落ちている。理由としては公民館講座で一切何もやってないんですね。</li> <li>・ 私たち、10何年前は、どこでも、その絵画教室とか版画教室とか民謡教室とか能楽教室とか謡曲教室とか、いろんな佐渡の文化に関する公民館講座があったんですけども、ここ私見る中では今ほとんどゼロの状況でありますんで、今各地区公民館には来年度については、そういった文化を継続するための公民館講座、また民謡とか、そういったところの我々支援になっていくかなというふうには思ってますし、その団体のほうに強く我々が介入しようと思って側面的にどうやって応援していけるかを考えた中で、各公民館講座的な支援ができるかなというところもありますし、あとは文化財団がしっかり調整機能を言われるとおりしてもらえれば、それぞれいろんな団体との調整をしっかりやってもらえれば、それなりには進んでいけるかなと思っていますので、よろしくお願いいたします。</li> </ul>
<p>・ 仲川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな側面から、この文化財団に関しては考えなきゃいけない。</li> <li>・ 方策検討会の中に観光課長も入ってましたが、活動の場を確保した後は、観光への利用ということを当然視野に入れながら、これから進めていくということですね。</li> <li>・ 芸能に関わる人たちは向上意欲が素晴らしい。</li> <li>・ みんな芸を上達させ洗練させるといふ気持ちは強いですので、そういう人たちの発表の場を観光とリンクさせながら、提供して収入につながるよう</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> <li>・ 委員全員</li> <li>・ 渡邊教育長</li>   <li>・ 坂田教育総務課長</li>   <li>・ 渡邊教育長</li> <li>・ 委員全員</li> </ul>	<p>にさせていただくのは、とてもいいことだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界遺産に無事推薦されたときには、これが観光に生かせるようにぜひ意欲的にやっていただきたい。</li> <li>・ 民謡団体を組織化、ネットワーク化して、それを上手に意見調整しながら進めていくのはいいと思いますし、この民謡団体の調査も本当に素晴らしい調査です。今度は人形芝居でも続けていただきたい。とてもいい資料を今回つくっていただきました。</li> <li>・ もう1点、課長の言葉に、この民謡の若い人たちの中で、「他の団体の技を盗みたい」ということがありました。見て、やってみて、覚えたいということですので、これは日本の芸能の根本にあるところだろうと思います。ぜひその気持ちを大事にしてあげてもらいたい。</li> <li>・ 若者の力は本当にすごい。あれよあれよという間に、何かのきっかけで伸びていく。</li> <li>・ 私の関係した学校の郷土芸能部では、全国優勝した学校の部活動の日常の練習を見たいという申出があって、真冬に見に行かせたことがあります。帰ってきたときは目つきが変わっていました。おそらくそれが全国優勝につながりました。</li> <li>・ 向上心は大変旺盛ですし、きっかけをつくることは、とても大事なことだろうと思います。</li> <li>・ この横の組織についても、そういう若者の声を生かすような、年配者が下を抑えつけるのではなく、若者のために年配者としての知恵を出してもらうような、そういういい組織にしてもらいたいと思います。</li> <li>・ 当初は民謡、次は人形芝居、その次には何かというように、ぜひ優先順位を決めて、負担になり過ぎないようにやっていただくとありがたい。</li> <li>・ 他にございますか。</li> <li>・ 発言なし</li> <li>・ 質疑なしと認めます。</li> <li>・ 報告事項2、その他について、事務局の説明を求めます。</li> </ul> <p><b>【説明要旨】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2月26日の定例会の当初予算の概要で、仲川委員から質問をいただいた市内小中学校の太陽光発電設備について、設備の状況をご説明いたします。</li> <li>・ 現在、小学校8校、中学校2校に太陽光発電設備がついています。小学校は2校が自家消費で6校が売電、中学校は2校が売電しています。</li> <li>・ 設置については、佐渡市の新エネルギービジョン、その後つくられた新エネルギー導入計画に基づいて施設の改築、改修に併せて、平成18年から25年の間に経済対策や補助事業を使いながら整備されました。</li> <li>・ この後の計画は、今ほどのビジョンや計画のとおり、施設の改修や改築の際に設置するという方向性を検討していく方向になるかと思っています。</li> <li>・ その他委員の皆様から何かありましたらお願いします。</li> <li>・ 発言なし</li> </ul>
---	--

<p>・ 渡邊教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日程第 3、報告事項はこれで終了いたします。</li><li>・ 日程第 4、次回会議の開催日について、事務局の説明を求めます。 【次回の会議は、3月 19 日（金）または 3月 22 日（月）に定例会を開催したい旨を説明した。】</li><li>・ 以上で令和 3 年第 4 回佐渡市教育委員会臨時会を閉会いたします。</li></ul> <p style="text-align: right;">午前 11 時 38 分終了</p>
----------------	---